

所属・資格 史学科・教授

申請者氏名 古川 隆久

研究課題		日本近現代史像の再構築
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>近現代日本の政治及び社会や文化の構造や実態、それら相互の関連性について、2016年度公刊の『昭和史』（ちくま新書）の知見をふまえ、日本近現代史像の再構築をめざす。</p> <p>本年度は、引き続き、日中戦争期の政友会代議士前田米蔵の動向について、史料収集を進め、論文化をめざすとともに、一昨年度『歴史学研究』に寄稿した「近代日本における建国神話の社会史」の成果をふまえ、近代日本における建国神話の社会史的影響について検討を深め、著書執筆に向けて研究を進める。その他、日本近現代史像の再検討の手掛かりとするため、隣接分野の最新の研究成果の吸収にもつとめる。</p>
	研究 の 結果	<p>前田米蔵については、『史学雑誌』に投稿した論文「日中戦争期の前田米蔵——前田の憲政論を中心に——」が、同誌第128編第6号（2019年6月）に論文として掲載された（論文①）。</p> <p>近代日本における建国神話の社会史的影響については、2020年1月に中央公論新社の中公選書の一冊『建国神話の社会史』（著書①）として刊行することができた。</p> <p>その他、論文②は2019年3月に韓国の国立外交院日本研究センターでの口頭報告（昨年研究成果報告書に記載済み）を、依頼により活字化したものである。</p>
	研究 の 考察・ 反省	<p>前田米蔵については、順調に研究成果を公刊できたので、引き続き太平洋戦争期について史料や先行研究の収集を進めたい。</p> <p>近代日本における建国神話の社会史的影響については、著書刊行という目標を達成することができた。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>研究成果物 著書 『建国神話の社会史』（中央公論新社、中公選書、2020年1月）262頁（単著） 論文（いずれも単著） ①日中戦争期の前田米蔵——前田の憲政論を中心に——（『史学雑誌』128編6号、2019年6月）1～35頁（査読あり） ②후루카와 타카히사 「일본 천황의 생전퇴위가 일본사회 및 한일관계에 미치는 함의」(버넥:조은별), 『일본공간』25、2019、국민대학교 일본학연구소는, p59-74 (「日本天皇の生前退位の日本社会と日韓関係にとっての意味」(翻訳 チョウウンピョル) 『日本空間』25号、2019年6月、国民大学校日本学研究所、59～74頁) (招待、査読なし)</p>	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>書評（単著） 「書評 河西秀哉『近代天皇制から象徴天皇制へ——「象徴」への道程』・「天皇制と民主主義の昭和史」』（『同時代史研究』第12号、2019年12月）110～114頁（査読あり）</p>	